

臨床免疫学 I

Clinical Immunology I

単位数：5 単位

○川内秀之 教授	：耳鼻咽喉科学	佐野千晶 准教授	：地域医療支援学
村川洋子 准教授	：膠原病内科学	青井典明 講師	：耳鼻咽喉科
森倉一朗 講師	：耳鼻咽喉科	近藤正宏 学内講師	：膠原病内科

1. 科目の教育方針

臨床免疫学の講義・演習では、免疫学的機序により起こる種々の疾患について理解を深めるだけでなく、自己免疫疾患やアレルギー性炎症の発症機序や病態形成に至る過程を分子生物学的な観点から理解しうるよう到達目標を定める。各領域における免疫疾患の病態は多彩であり、それらを網羅的に学ぶ機会として重要な科目である。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 臨床免疫学に関する知識を、免疫化学、免疫病理、分子免疫の立場からよりよく理解する。
- 2) 臨床免疫学において必要となる疾患の理解を網羅的に理解し、説明することができる。

各担当者による講義内容の詳細

- ① 川内：アレルギー性鼻炎、自己免疫性内耳疾患などの耳鼻咽喉科免疫関連疾患について、病態や治療法について免疫学的観点から解説を行う。
- ② 村川：関節リウマチの病態や最近の分子標的治療について解説する。
- ③ 佐野：扁桃関連疾患、中耳、鼻副鼻腔領域の感染症について、細菌学的観点から、病態や治療法について解説を行う。
- ④ 近藤：関節リウマチの骨破壊につき、骨免疫学の観点から解説する。また、関節リウマチ以外の全身性自己免疫疾患の病態や最新の治療につき解説を行う。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 臨床免疫学に関連する種々の疾患の臨床的な特徴や特異性を説明できる。
- 2) 免疫学的機序で起きる疾患の病態や治療について、免疫化学、免疫病理、分子免疫の立場から、理解し説明できる。
- 3) 自己免疫疾患やアレルギー疾患について、その予防や治療において、社会的に積極的に関わる態度を示し、啓蒙行動などを行う資質を十分に身につける。

3. 教育の方法、進め方

講義、大学院学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率（2/3 以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献（担当者推薦）

- 1) 臨床アレルギー学 アレルギー専門医・認定医研修のために 改訂第2版
宮本昭正 監修 南江堂 1998. (川内)
- 2) 炎症と抗炎症戦略 宮田誠逸 編 医薬ジャーナル社 1997. (川内)
- 3) 免疫疾患 第2版 医学の歩み 別冊 今西二郎他 編 2002. (川内)
- 4) 免疫・アレルギー疾患 21世紀耳鼻咽喉科領域の臨床 18巻 野村恭也他 編
中山書店 2001. (佐野)
- 5) IgA腎症診療マニュアル エビデンスに基づいた診断と治療 富野康日己 編
南江堂 1999. (佐野)
- 6) 免疫生物学 (南江堂) (村川)

Related International Journals recommended :

Journal of Allergy and Clinical Immunology

Journal of Immunology

Journal of Experimental Medicine

Journal of Immunological Methods

Journal of Clinical Investigation

Vaccine

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	臨床免疫学 概論 －病態の理解に必要な免疫学の基本知識－	川内秀之
2	アレルギー性鼻炎の病態と治療	川内秀之
3	内耳自己免疫疾患の病態と治療、扁桃炎と関連疾患	川内秀之
4	関節リウマチの病因と病態	村川洋子
5	関節リウマチと生物学的治療	村川洋子
6	関節リウマチと臓器障害	村川洋子
7	扁桃関連疾患及び中耳、鼻副鼻腔の感染症	佐野千晶
8	感染症と免疫制御機構	佐野千晶
9	Toll様受容体と感染免疫	佐野千晶
10	骨組織における免疫反応の最新情報	近藤正宏
11	全身性自己免疫疾患の病態	近藤正宏
12	全身性自己免疫疾患の最新治療	近藤正宏
13	粘膜免疫の最新情報	川内秀之
14	粘膜免疫の臨床応用	川内秀之
15	調節性T細胞と免疫制御	川内秀之